

オスプレイの墜落に抗議しオスプレイの飛行停止を求める意見書

11月29日午後、米軍横田基地所属のCV22オスプレイ（空軍仕様）が屋久島沖で墜落、米軍は搭乗員全員の死亡を認定した。亡くなった乗員に心から哀悼の意を表明する。

同機は横田基地を出発、岩国基地を経由して沖縄の嘉手納基地に向かう途中だとしている。墜落した海域では多数の漁船が漁をしていたのが確認されている。墜落地点が陸上であれば甚大な被害が出ていたことは明白である。

国内で初めて死者を出した重大事故にもかかわらず、原因解明も行われぬまま事故当日もオスプレイが飛行を繰り返しており、その後オスプレイ全機の飛行停止を行ったが県民の不安を拡大し、安心・安全な暮らしを守る観点から容認できない。

オスプレイは、開発段階から事故が絶えず、2022年6月10日米海兵隊員6名が死亡したMV22オスプレイ（海兵隊仕様）の墜落事故では、クラッチの事故であったことを米軍の調査報告書で明らかにしている。

オスプレイは、国内外でこれまでに17回墜落し、死者は65名。不具合による緊急着陸は、日本国内だけで12回にのぼっている。

日本には、現在米軍と自衛隊を合わせて44機のオスプレイが配備されており、米国以外では最も多くのオスプレイが配備され、豊見城市上空も飛行している。

米軍は、すべてのオスプレイの飛行を停止したが安全・安心な社会の実現のためにも以下の点を求める。

記

- 一、事故原因が究明され、有効な安全策が講じられるまでの間オスプレイの飛行を停止すること。
- 一、普天間基地の一日も早い閉鎖・返還を行うこと。
- 一、日米地位協定の抜本改定を行うこと。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和5年12月21日

沖縄県豊見城市議会

宛先
内閣総理大臣
防衛大臣
外務大臣